ゆりかご園だより

2019・11・1

3期(10~12月)のねらい
手を使ってつくりだす活動を中心に園生活を豊かにしよう

先月、3歳児は旭山公園へ遠足に行きました。天気も良く背負ったリュックにはおいしいお弁当もスッていて、友だちと歩く道のりは気もちも高まります。声も次第に大きくなっていました。

そんな中、遠足がうれしくてうれしくてたまらない様子ではしゃぐDくん。近くを歩いていたTくんをピシャッと叩いてしまいました。お互いに同じような気もちであれば笑って済んだのかもしれませんが、この時のTくんはDくんの気もちに気づかず、不意だったこともあって泣いてしまいました。近くにいた子たちにたしなめられ、シュンとするDくん。

Dくんの気もちがよくわかったので「遠足がうれしくてお友だちを叩いちゃったの?」と聞くと「うん」と小さくうなずきます。「そっかぁ、遠足楽しいもんね」と声をかけました。

すると、「うん」と言った後、それまで大切に持っていた落ち葉をじっと見たかと思うと「エイッ」と投げ捨てたのです。それでも気もちが収まらないらしく、葉が粉々になるまで踏みつけていました。"どうして叩いちゃったんだろう。叩いちゃったのはまずかったな"という思いの持ていきどころが、落ち葉を粉々にすることだったのかもしれません。

新保育所保育指針では"幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿"が明確になり、計画に沿った保育が重要と強調されています。ある市の幼児教育振興計画では、重点目標が「返事・挨拶・整化そろえ」で、客観的に評価ができるよう、チェックリストが356項目もあるそうです。

幼児期は、友だちとのやりとりを通して自分を振り返る、相手の思いに気づくことが大切で、「ごめんなさい」という言葉先行で解決するよりも意味があります。子ども全員を一つの物差しで評価せず、子どもの内面をよく理解し見守ることの大切さを、Dくんの落ち葉に向ける表情を見て改めて思ったのでした。